

高萩地区ウォーキング その1の楽しみポイント

1.武蔵高萩駅余話

- 川越線の開通は、昭和15年7月22日に営業開始
- 開通時に、豊岡（現入間市）陸軍航空士官学校高萩分校高萩飛行場（現旭ヶ丘）に到着するはずの物資が茨城県の高萩駅にしばしば間違ったそうである。この為に武蔵高萩とした。
（日高町歴史散歩 日高町教育委員会 平成3年3月発行による）



武蔵高萩駅（昭和15年ごろ）



2021年2月20日撮影畑中

（日高市ホームページより）

2.小畔川

飯能市大字宮沢の宮沢湖に源を発し、途中、中田橋下流で南小畔川を合わせ、川越市と坂戸市境界付近の落合橋下流で越辺川に合流する。

（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）



平成18年2月 埼玉県発行資料より

3.殿淵の由来

現在のあさひ橋付近、江戸時代の或る年、村が飢饉になった事があった。村の領主は検見のために江戸から役人を派遣しての坪刈を実施することになった。ところが来村した役人の先祖は昔当地堀之内に住んでいた殿様であった。

このことからあさひ橋付近の川の淵を「殿淵」となった。

明治の初め水車堀の水路を開鑿する時に墓地に当り、刀二振りと大きな骨壺が出土した。

（日高町歴史散歩 日高町教育委員会 平成3年3月発行による）



2021年2月20日撮影

4.王神橋名の由来

- 平成30年11月15日に開通した。
- 関係地権者の方々から公募した結果を基に橋名を採用した。
- 採用した理由は、当該区域北側の字名「王神」に架かる橋のため、その名を使用したいと意見が多数寄せられたことが決め手となりました。（日高市ホームページより）

「王神遺跡」は日高高校南側で発掘調査が行われ、奈良・平安時代の竪穴住居址や堀立住居跡、出土し須恵器や土師器などが出土した。（文化新聞より：2017年7月22日現地説明会が行われた）



2021年2月20日撮影畑中



（文化新聞より）

5.境橋名の由来（「さかひばし」の刻字あり）

6.境橋建設美（菱形窓） 7.小畔川一級河川起点碑

5.境橋名は、架橋地点が高萩（旧、入間郡高萩村）と鹿山・下鹿山（旧、入間郡高麗川村）の境であることに由来する。という説がある。昭和八年十二月施功と刻字あり

6. 橋の欄干は菱形窓が施され、造形美を感じられる。

7.小畔川一級河川の起点は境橋の付近に設置されています。



2021年2月20日撮影畑中

- 起点碑は菱形欄干の反対側の手前右側の橋の横にあります。

